

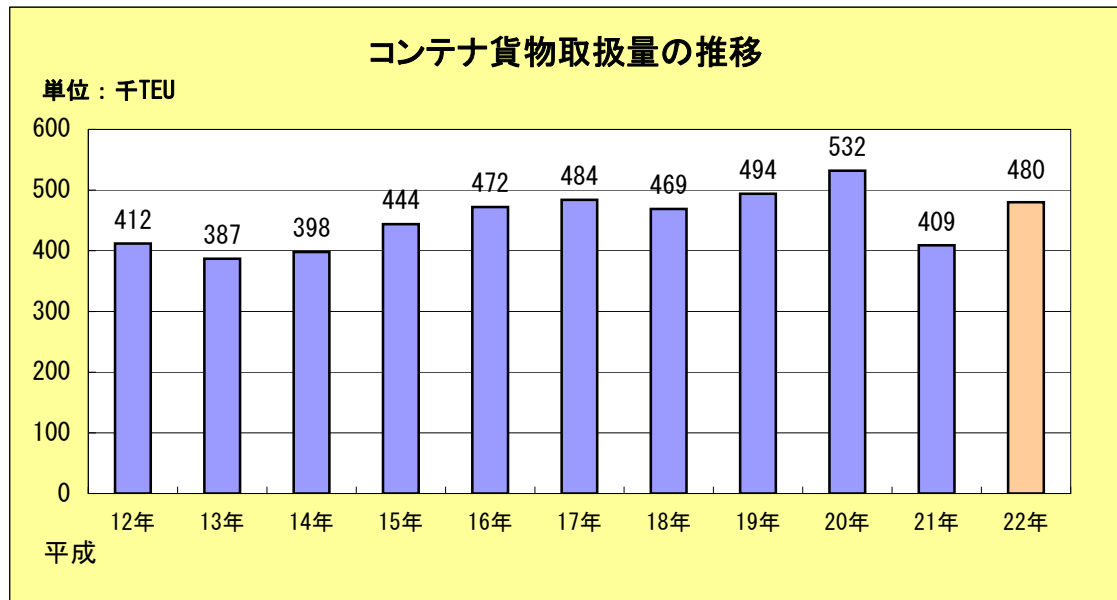
平成22年 北九州港の貨物取扱量（速報値）について

～コンテナ貨物は 前年比117% と大幅に増加～

1 コンテナ貨物取扱量について

平成22年の北九州港のコンテナ貨物取扱量は、速報値ベースで、480,000TEU、前年と比較して17%増となり、過去最高を記録した平成20年取扱量の9割方まで回復してきている。

品種別では、「自動車部品」が外貿内貿とも増加し、合計の取扱量は、前年同期比156%となっている。特に「自動車部品」の輸出については、好調だった平成20年を上回る取扱量となっており、北九州港の主要品種となっている。



※平成21年までは確定値、平成22年は速報値

【参 考】

コンテナ貨物取扱量の推移

年次	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年速報値
取扱量(TEU)	468,950	493,891	531,728	409,229	480,000
前年比	96.9%	105.3%	107.7%	77.0%	117.3%
				22年/20年比率	90.3%

* 速報値 = 港湾統計集計中の数値とコンテナターミナルで取り扱った数量を合わせて推計した数値

* TEU = 20フィートコンテナに換算したコンテナ個数の単位。Twenty-Foot Equivalent Unitの略。

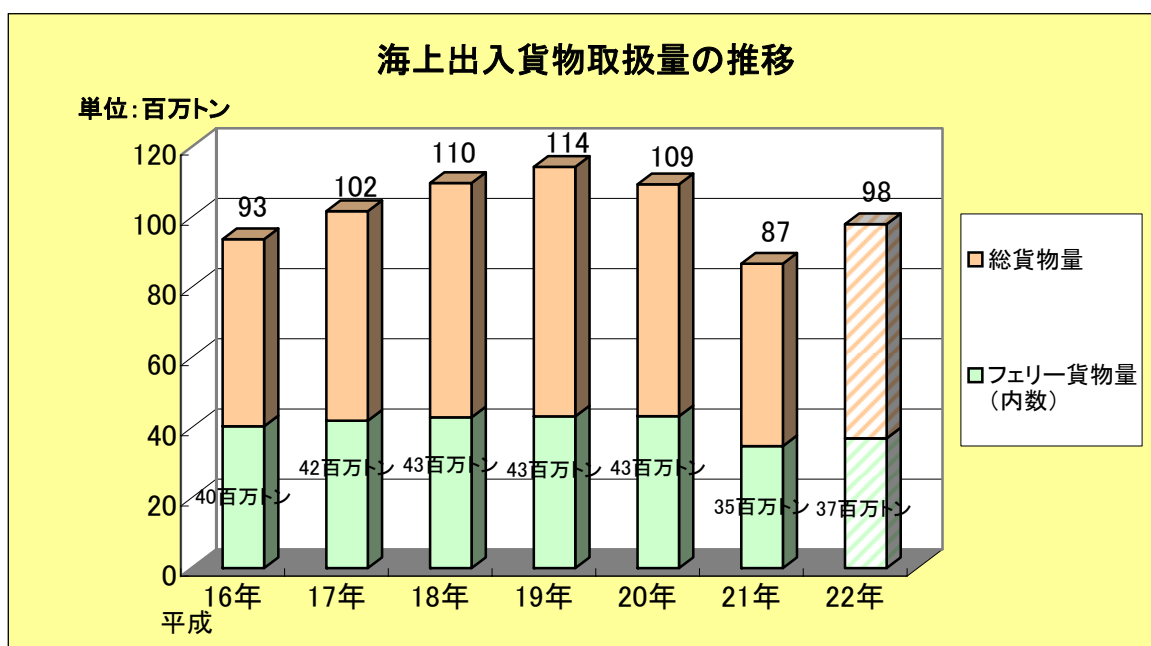
20フィートコンテナ1個が1TEU、40フィートコンテナ1個が2TEUとなる。

* 集計は暦年による（1月から12月までの取扱量）

2 海上出入貨物取扱量について

港全体で取り扱われる貨物量を表す、海上出入貨物取扱量については、前年比113%、9千8百万トンを見込んでいる。

品種別で見ると、「石炭」、「鉄鉱石」、「鋼材」などの上位品種は、前年同期比140%前後となっており、好調な回復傾向がうかがえる。一方、北九州港の海上出入貨物量の約4割を占める、内航フェリーの貨物量が、高速道路料金値下げなどの影響で、前年同期比107%にとどまっており、取扱量が1億トンまで回復できなかった大きな要因となっている。



※平成21年までは確定値、平成22年は速報値

【参 考】

海上出入貨物取扱量の推移

年次	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年速報値
取扱量(トン)	109,723,953	114,350,004	109,367,359	86,744,847	98,000,000
前年比		107.9%	104.2%	95.6%	79.3%

フェリー貨物取扱量の推移 (海上出入貨物取扱量の内数)

年次	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年速報値
取扱量(トン)	42,965,220	43,237,665	43,294,960	34,758,515	37,200,000
前年比		102.2%	100.6%	100.1%	80.3%

* 22年数値は集計途中のため、見込みを推計した速報値です。今後変動する可能性がありますのでご了承下さい。

22年の最終確定値は、5月に公表予定です。

港湾空港局 港営課
片山、松元 321-5932